

## 新しい歴史を拓く～婦選の松明を未来へ ～1946.4.10. 初の婦人参政権行使と日本女性自立への<sup>たびだち</sup>出発～

記念すべき4月10日、一冊の会永久最高顧問の相馬雪香先生との思い出深い先生の応接室で研修会を行いました。今回第4回を迎えた第2章櫻華塾、開塾式を含めると5回目となりました。いつもと違い室内に響く“キャッキヤ”と明るい笑い声。その愛くるしい笑顔で参加者を幸せな気分にかけてくれた可愛い赤ちゃんと一緒にヤングの今元佑美(旧姓佐藤)さんが、新米ママよろしく“シィ、シィ”という声に参加者全員微笑ましく心安らかな研修会となりました。本日の司会進行役は「フレッシュな感覚で櫻華塾の歴史を拓いて欲しい」という大槻会長の御厚意により、ヤングの山内さんが初めて担当されました。

瀧川さんから前回の櫻華塾で決定した「東日本大震災ハンカチ支援プロジェクト」の説明がありました。友好の華づなりレーと言うは易い、現実の難しさをどう乗り切るか?このプロジェクトの中心者は水上鞠子先輩です。副責任者として成功させる!との決意を披露。これからは直接、水上先輩と組んでの行動です。塾生全員で心一つに、何としても大成功の金字塔を打ち立てることです。大槻会長からの説明があった通り、11月5日は国連で定めた「世界津波の日」です。津波で大きな打撃を受け心がズタズタになっている被災者に、立ち向かう勇気を与えて下さいました。平和の為に心血を注いで指揮をとって下さった潘事務総長(任期満了は12月)に、敬意を表します。私たちは意義ある“この日”を目標に被災地の人達と手を携えて微力ではありますが、自称応援隊の“心の絆大作戦”を推進し、参加者全員が幸せ結ぶ懸け橋の主体者に成長して参りましょう。

### 4月度櫻華塾に参加して 野本朝子さんの感想を紹介します。

「小山副会長から「1946.4.10」のブルーの本作りの経過報告に触れ、参画した先輩たちが、どれほど大変なご苦労と熱い情熱で作られた本なのかということを知りました。大槻会長は「はじめに」(P.2)の中で、庶民の女性がどのような思いで投票に臨んだかという証言の記録として、生の声をまとめたという思いだったと述べています。石田理事長の講演で、一冊の会は国連の流れと共に歩むとありますが、国連が素晴らしいのではなく、それを活かしている庶民一人ひとりが自分で考え実践してきたので国連が活きてくるのです。素晴らしい制度が出来ればそれでいいというものではない。憲法が如何に立派でも、国民一人ひとりが考え、憲法を活かしていくのでなければ何も生まれないということをもう一度私たちは考える時期に来ているとのお言葉に“心からそうだ”と思いました。毎回、心のこもった準備をして開催される櫻華塾に感謝し、これからもしっかりと学んで参ります。」



**人権紙芝居【民権婆さん 楠瀬喜多】完成、一般発売開始！**



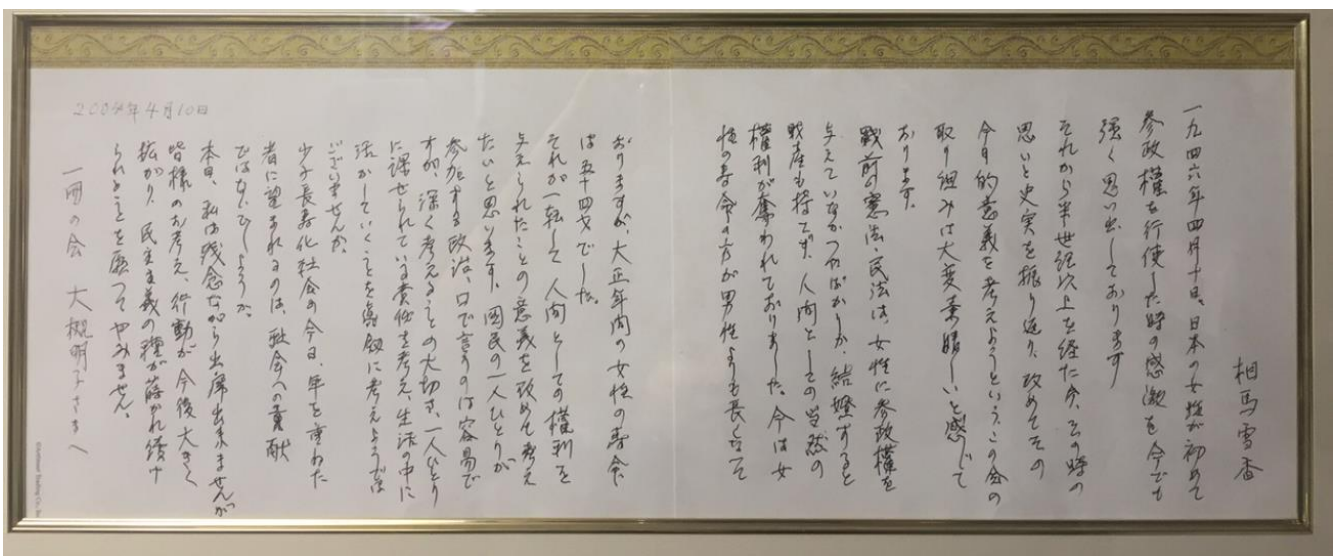
皆さん、一冊の会 Facebook でも紹介しておりますように、今年の3月8日、世界女性デーにおいて、【院内集会】女性参政権70周年記念クオータ法案を成立させよう、の会合に大槻会長と小山副会長が出席されました。一冊の会の最高顧問であり、均等法生みの親の赤松良子先生の御挨拶もあり、また各党代表の議員から活発な意見が述べられ、まさにこのクオータ制実現への歴史の一ページに刻まれた会場で

【民権婆さん 楠瀬喜多 紙芝居 DVD】を赤松良子先生、山下泰子先生、フジテレビの安藤優子キャスターにも贈呈することが出来ました。楠瀬喜多は高知県出身で若い時から坂本竜馬の幼友達でした。喜多は39歳時に夫に先立たれ未亡人となり、自ら働いたお金で【戸主】としてしっかりと税金を納めていました。しかし戸主としての責任を果たし、国民として義務である納税は行っても、女性という理由で【参政権】という権利を与えられないことに大いに反発をし、参政権を要求する為の運動を起こしたのです。

女性は男性の付属者であったという日本の歴史が大きく変わろうとしていましたが残念ながら、政府によって当時女性への参政権は認められませんでした。女性の参政権が認められたのは1946年4月10日です。男によって女性が輝くのではなく、本来、女性の資質によって自ら輝く、まさに70年前日本女性自立の出発（たびだち）の日でありました。記念すべき2016年4月10日の櫻華塾にて、皆さまのご協力、ご支援のお陰で楠瀬喜多の人権紙芝居のDVDが一般発売することが出来ました。



是非とも皆さま DVD をご覧下さい。



『女性の人権について』相馬雪香先生が事務所で書き下さった書（2004.4.10）12年前93歳

編集・文責：大槻、小山、村岡